

子宮頸がん予防ワクチンについて Q&A

Q. 公費対象は何歳～何歳？

A. 中学1年（に相当する歳）～高校2年（に相当する歳）

ただし3回目を今年度中に接種するには9月中に1回目を接種する必要があります。

高校2年（相当する歳）の方は9月中に接種しないと3回分全てが自費になってしまいます。

それ以外の公費対象者も9月中に接種しないと3回目が自費になる可能性があります。

来年度の公費については現在のところ決まっていません。

Q. 公費対象外の方は接種できるか？

A. 有料で接種できます。

Q. 接種スケジュールは？

A. サーバリックス 初回、1ヵ月後、6ヵ月後の計3回

ガーダシル 初回、2ヵ月後、6ヵ月後の計3回

Q. 公費対象者の窓口負担は？

A. 公費対象者の窓口負担はありません。（初回を9月までに接種することが条件です）

Q. 副反応はあるか？

A. かゆみ、注射部分の痛み、赤み、腫れ、筋肉の痛み、関節の痛みなど接種部位の局所的な副反応が多いとされています。2.3日痛みが持続するケースもあります。

その他胃腸症状、頭痛、疲労、発疹、蕁麻疹など起こりえる可能性はあります。

重い副反応として、まれにアナフィラキシー様症状があらわれることがあります。

Q. 予防ワクチンを接種すれば子宮頸がんにならないのか？

A. 100%とは言い切れません。サーバリックスを例にあげると、16型・18型HPVに対する予防効果は60%~70%とされています。

Q. 予防ワクチンを接種すれば子宮頸がん検診を受けなくて良いのか？

A. 予防ワクチンはすべての発がん性HPVの感染を防ぐものではありません。

子宮頸がんを予防するためには、ワクチン接種後も定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。